

大会規約並びに取り決め事項（案）

変更：赤字→青字

追加：青字

第7条（競技運営に関する注意事項）

公式大会における競技運営については次の事項を遵守しなければならない。

- (1) 出場チームは試合開始予定時間の1時間前迄に会場に到着すること。 罰則：
試合開始時刻をもって『没収試合』とする。（試合開始時刻が遅れている場合、メンバー表（打順表）交換時をもって『没収試合』）とする。
- (2) 会場到着時大会本部にて受付を行うこと。
- (3) メンバー表（打順表）の提出は、(1) その日の第一試合は開始時刻の30分前までに(2) 第二試合以降は前の試合の4回終了までに監督と主将が大会本部に提出し、登録原簿と照合の後、球審立会いのもと攻守を決定する。但し試合が連続する場合そのチームに限り終了後速やかにメンバー表（打順表）を大会本部に届け出なければならない。攻守の決定方法はジャンケンとし、勝ったチームに先攻・後攻の優先的選択権を与える。尚メンバー表（打順表）には、スターティングメンバーだけでなく、当該試合にベンチ入りする登録選手はすべてフルネームで記入すること（フリガナを付けること）。
- (2) 第一試合目の対戦チームは、会場到着後速やかに（20分以内）大会本部にメンバー表（打順表）を提出し、登録原簿との照合を受けなければならない。第二試合目、第三試合目の対戦チームは、前の試合の4回終了までに大会本部にメンバー表（打順表）を提出し、登録原簿との照合を受けなければならない。但し試合が連続する場合、そのチームに限り試合終了後速やかに（15分以内）大会本部にメンバー表（打順表）を提出し、登録原簿との照合を受けなければならない。
メンバー表（打順表）は、スターティングメンバーだけでなく、当該試合にベンチ入りする登録選手はすべてフルネームで記入すること（必ずフリガナを付けること）。

- (3) メンバー表（打順表）の交換及び攻守の決定については開始時刻の30分前に両チームの監督・主将及び審判員、大会本部立ち会いの上で行なう。攻守の決定はジャンケンとし、勝ったチームに先攻・後攻の選択権を与える。尚、試合が連続する場合は、連続するチームに配慮した時間を決めることが出来るものとする。
- (4) ベンチは組合せ抽選番号の若いチームを一塁側とする。
- (5) 試合中ベンチには監督またはコーチが必ず一名は入ること。
- (6) シートノックは5分間とする。但し、大会運営上、時間を短縮し、又はシートノックなしで試合を開始することがある。
- (6) 公式大会のシートノックは5分間とし準決勝のみ行なうものとする。但し、日程の都合等から決勝戦のみの試合となった場合はシートノックができるものとする。また大会の運営上時間を短縮、又はシートノック無しで試合を開始することがある。
- シートノックはユニフォームを着用した監督あるいはコーチが行なう。グラウンド内での試合前のノック、キャッチボール等もユニフォームを着用した指導者以外には練習相手をしてはならない。試合が開始されれば指導者であっても練習相手をしてはならない。
- シートノックの時、捕手プロテクター、レガース、捕手用ヘルメット等必ず着用すること。補助選手も必ずヘルメットを着用すること。 「-注- 球場内（試合会場）で投球練習の相手をするすべての選手は、最低限必ずマスクは着用すること。」 -県軟連学童部申し合わせ事項-
- (7) 球場内（試合会場）でのフリーバッティングは禁止する。
- (8) 試合中、ダッグアウト（ベンチ）の中に入れる人員は代表者1名、スコアラー1名、トレーナー（有資格者）登録された監督・コーチ・選手のみに制限する。但し猛暑日は熱中症対策として保護者（女性）2名以内をベンチに入れることができる。（大会本部に届け出ること）
- (9) ダッグアウト（ベンチ）の中で携帯マイクを使用してはならない。但し、メガホンは監督に限り使用を認める。また、ダッグアウト（ベンチ）内に椅子及び机を持ち込むことを禁ずる。尚、椅子が不足する等正当な理由がある場合、大会本部の許可を得なければならない。

- (10) 第2試合以降は試合開始予定時刻前でも前の試合が終了した後20分を目安に次の試合を開始する。但し試合が連続となる時は30分とする。
- (11) 試合開始予定時刻になっても会場に到着しないチームは、原則として棄権とみなす。
- (12) 試合開始及び試合終了の挨拶時には監督、コーチはグラウンドコートを脱いで行なうこと。
- (13) 監督、コーチはベンチ外からの采配は認めない。
- (14) 試合中止の場合は大会実行委員会より各チームに連絡する。雨天による判断が困難な場合は、集合時間までに会場に集合し、大会実行委員会の決定に従うこと。
- (15) その他
 - ①グラウンド整備 各会場の準備（大会本部の設置、ライン引き等）各会場で試合のある「当該チーム」から二名以上で責任をもって行なう。ベース、プレートの準備、鍵の開閉等は大会実行委員会開催時に必要に応じ割り当てる。
 - ②ベスト4（最終日）のグラウンドの準備、大会本部の設置、ライン引き等についても上記①と同様とする。
 - ③各会場の最終試合終了後、会場整備及びトイレ清掃等は「最終試合の2チーム」で行うこと。
 - ④グラウンド内でのサングラスの着用について（2016.3.21 県軟連部長）医師などの指導がある等により、サングラスの着用を必要とする場合を除いて、試合においてサングラスの使用を必要としないことを理由に2016 競技者必携の改訂（サングラスは、大会本部の承認なしに使用できる。ただし、ミラーレンズの使用を禁止する。）を適用しない。
 - ⑤ブルペンの使用について（2016.3.21 県軟連部長）学童部が試合を行なう殆どのグラウンドには、一塁側・三塁側のファウルグラウンドにブルペンが設置されていないこと。また、仮にブルペンの使用を認めた場合、投球練習のボールがそれて、試合の中断を余儀なくされることが懸念されることを理由に2016 競技者必携の改訂（次の試合のバッテリーは、攻守決定後、球場内のブルペンを使用することができる。）を適用しない。

- ⑥フェンスライン外でのティバッティングの練習、キャッチボール、投球練習、素振り練習は、保護者、子供らが大勢いる場所での練習はチームがすべての責任をもち必ず指導者の立ち会いのうえで行うこと

-注- ティバッティングのボールは紙ボールとする。 (申し合わせ事項)

第 10 条 (競技規則等) 追加

(2) 試合開始前の選手負傷等による変更の取り扱い

メンバー表 (打順表) 交換後、試合開始前にメンバー表 (打順表) 先発記載選手が負傷、又は急病のため先発出場が不能となった場合、控え選手を出場させることができる。この場合出場不能になった選手は回復すれば試合に出ることが出来る。

田辺・西牟婁学童協議会特別ルール 2019.2.2 承認

(3) バックストップ (バックネット) にボールが挟まった場合の取り扱いについて

○投球、送球に関わらずテイク・ワンとする。

田辺・西牟婁学童協議会特別ルール 2019.2.2 承認

*バックストップ (野球場で、本塁の後方に 張ってある、打球などを止めるための網) が関係する条項には①2 個の塁が与えられる場合: バックストップの上部の継ぎ目から上方に斜めに張ってある金網に上がった場合。(5.06 b 4 G-3) ②1 個の塁が与えられる場合: 打者に対する投球が . . . バックストップを超えるか、抜けた場合 (5.06 b 4 H)。とあるが挟まる項目が見当たらない。本来あり得ない設備の不備によるものとしか考えられません。しかし現実としては、挟まることのある所で試合が行われしばしば 2 個進塁、1 個の進塁で協議される例があることから協議会特別ルールとし投球、送球に関わらず 1 個の進塁権とする。

理由: 捕手からの距離が短いグラウンドが多いこと。バックストップ設備の不備であること。

尚、進塁基準は、野球規則による。